

教育研究等活動業績

山梨英和大学

フリガナ氏名	性別	生年(西暦)	職名	所属
タカハシ ヒロコ 高橋 寛子	女	非公表	教授	人間文化学部人間文化学科 大学院人間文化研究科臨床心理学専攻
取得学位称号	文学修士	専門分野	心理臨床学、スーパーヴィジョン学、フォーカシングと体験過程、学生相談	
学歴	1979年 3月	神奈川県立川和高等学校 卒業		
	1980年 4月	武蔵大学 人文学部社会学科 入学		
	1984年 3月	武蔵大学 人文学部社会学科 卒業		
	1987年 4月	上智大学カウンセリング研究所 専門カウンセラー養成課程 入学		
	1989年 3月	上智大学カウンセリング研究所 専門カウンセラー養成課程 修了		
	2000年 4月	大正大学大学院 文学研究科臨床心理学専攻 修士課程入学		
	2002年 3月	大正大学大学院 文学研究科臨床心理学専攻 修士課程修了 修士(文学)		
	2010年 4月	京都大学大学院 教育学研究科臨床教育学専攻(臨床実践指導学講座)博士後期課程入学		
	2013年 3月	京都大学大学院 教育学研究科臨床教育学専攻(臨床実践指導学講座)博士後期課程単位取得退学		
実務経歴	1984年 3月	株式会社 キッツ 入社		
	1987年 2月	株式会社 キッツ 退社		
	1987年 4月	東京家政大学 学生相談室 専任カウンセラー (2010年3月まで) (2005年4月～2010年3月 保健センター学生相談室 主任カウンセラー)		
	2000年 4月	東京家政大学臨床相談センター 相談員 (兼務、2002年3月まで)		
	2006年 4月	日本精神技術研究所 フォーカシング個別指導担当 (2018年3月まで)		
	2009年 6月	池袋カウンセリングセンター(現:市ヶ谷カウンセリングセンター)カウンセラー (現在に至る)		
	2010年 4月	法政大学 学生相談室 心理カウンセラー (2013年3月まで)		
	2010年 4月	山梨英和大学大学院人間科学研究科 非常勤講師 「臨床心理実習Ⅰ」「臨床心理実習Ⅱ」(2013年3月まで)		
	2010年 4月	京都大学大学院教育学研究科ティーチングアシスタント 「心理テスト初級実習」「心理テスト中級実習」(2013年3月まで)		
	2011年 7月	最高裁判所 司法研修所 カウンセラー (2013年3月まで)		
	2012年 4月	高千穂大学 人文科学部 児童教育学科 非常勤講師 「カウンセリング論Ⅰ」「カウンセリング論Ⅱ」(2013年3月まで)		
	2013年 4月	山梨英和大学 人間文化学部 准教授		
	2013年 4月	山梨英和大学大学院 人間文化研究科 准教授 (兼任)		
	2013年 4月	山梨英和大学 心理臨床センター 相談員(兼務) (現在に至る)		
	2015年 4月	山梨大学 工学部 非常勤講師 (2019年3月まで)		
	2015年 4月	笛吹市子育て支援センターえいわ 臨床心理士 (現在に至る)		
	2017年 6月	放送大学大学院 客員准教授		
	2018年 4月	山梨英和大学人間文化学部 教授 (現在に至る)		
2018年 4月	山梨英和大学大学院 人間文化研究科 教授 (兼任) (現在に至る)			
2018年 4月	放送大学大学院 客員教授 (2019年3月まで)			
受賞歴	2006年 5月	日本学生相談学会 奨励賞 (実践活動奨励賞)		
所属学会	1987年 4月	日本カウンセリング学会 正会員(2012年まで)		
	1987年 4月	日本人間性心理学会 正会員(現在に至る)		
	1988年 4月	日本学生相談学会 正会員(現在に至る)		
	1992年 4月	日本心理臨床学会 正会員(現在に至る)		
	1993年 4月	日本臨床心理士会会員(現在に至る)		
	1998年 4月	日本フォーカシング協会 会員(現在に至る)		
	2000年 1月	The International Focusing Institute(現在に至る)		
資格・免許等	1984年 3月	中学校教諭1級・高等学校2級教諭普通免許状(社会科)		
	1993年 3月	臨床心理士(日本臨床心理士資格認定協会/第3754号)		
	1996年 3月	認定カウンセラー(日本カウンセリング学会/第0166号)		
	2000年 2月	Certified Focusing Professional (Focusing Trainer) (米)The International Focusing Institute		
	2003年 6月	大学カウンセラー(日本学生相談学会/第040070号)		
	2019年 2月	公認心理師(文部科学省・厚生労働省登録/第803号)		
e-mail	非公表			

## 目 次

### ○教育業績

教育理念、方針、方法

教育能力

教育方法実践例

作成した教科書、教材等

教育方法や実践に関する発表、講演等

担当授業科目

代表的なシラバス

教育改善活動

教育能力に対する評価

### ○研究業績

研究の特徴

研究経歴

研究実績

著書

学術論文

その他の研究活動

競争的資金採択課題

学会等発表、役員参加

共同研究・受託研究の実績

大学院生指導

研究能力に対する評価

### ○サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績

アドバイザー活動実績

後進育成活動実績

社会貢献活動

### ○専門的活動(教育業績、研究業績、サービス活動業績)の統合による成果と目標

専門的成果

専門的目標

### ○添付資料

## 教育業績

教育能力	<p>(1)教育方法実践例</p> <p>①実践的グループワーク・アクティブラーニングを取り入れることで、体験を通しての授業に取り組んだ。そこから身体的実感の賦活、他者とのコミュニケーション、自己表現能力の向上を図るとともに、多面的なコミュニケーション能力の育成を行なっている。また、毎回授業後にリアクションペーパーを促すことによって、生きた体験を重視できるよう工夫を行った。それらの実践をもとに『学生相談から切り拓く大学教育実践－学生の主体性を育む－』（学苑社、編著）を著し、広く大学教育に携わる教職員への発信と共有を図った。</p> <p>②講義科目においては、心理臨床実践例も織り込みながら、映像や図などを用い視覚的にもわかりやすい授業を行なっている。毎回授業後にはリアクションペーパーを用い、双方向のコミュニケーションを図りながら学生からの質疑にも対応している。</p> <p>③専門ゼミナール・卒業研究ゼミでは、演習を盛り込み体験を通して学びつつ、卒業研究を目指したきめ細かな指導を実践している。3年生前期では広く文献を読みプレゼンテーション・ディスカッションを深め、後期は各学生の関心に取り組み専門論文を読むなど、思春期・青年期心理を主なテーマとしながら、アディクション、障害者、貧困に関する問題など多岐にわたるテーマ・研究法による指導を行っている。</p> <p>④大学院授業では、実践演習を重んじるとともに、公認心理師・臨床心理士として必要な基盤づくりを図るための体験学習を積極的に取り入れている。個別指導として行うスーパーヴィジョンには、情緒面での配慮もきめ細かく行いながら、実践的指導にあたっている。また、自ら臨床心理士・公認心理師として、民間有料カウンセリング機関において複数事例を担当し実践を継続している。修士論文指導では、各自の関心に基づく研究テーマを尊重し、フィールドワーク等の実践的研究を心理臨床的視点から深めることにより、学会発表や紀要への論文投稿を推奨し、個別指導に力を注いでいる。</p> <p>(2)作成した教科書、教材等 特になし</p> <p>(3)教育方法や実践に関する発表、講演等</p> <p>大学院における事例研究法などに応用できる新たな質的研究法として、また心理臨床家育成のための教育方法としてTAE(Thinking At the Edge)を実践し、教育効果に関する研究を行い学会において発表した。</p> <p>①高橋寛子. 2018. 「専門家養成に役立つTAE－セラピスト養成－」. 第4回TAE質的研究シンポジウム. 招聘講演</p> <p>②高橋寛子. 2017. 「心理臨床スーパーヴィジョンと体験の言語化」. 京都大学大学院臨床実践指導学研究会シンポジウム. 口頭発表</p> <p>③高橋寛子. 2017. 「心理臨床教育におけるTAEの意義－体験の俯瞰化から普遍化・構造化へ－」. 第3回ジェンドリン学会・TAE質的研究シンポジウム合同大会. 口頭発表</p> <p>④高橋寛子. 2016. 「TAEを用いた体験の言語化への試み～大学院生の病院実習体験の深まりと限界～」. 日本人間性心理学会第35回大会. 口頭発表</p> <p>⑤高橋寛子. 2015. 「TAEを用いた体験の言語化への試み～大学院生の病院実習体験の深まりと限界～」. 暗在性哲学と質的研究の会（於：法政大学）口頭発表</p> <p>⑥高橋寛子. 2015. 大学院におけるスーパーヴィジョンの現状と課題. 山梨英和大学大学院FD研修会口頭発表</p> <p>⑦坂井新・○高橋寛子・日下紀子・田中久美子・北岡美世香・河本緑. 2012. “生きた体験”に基づく現場実習指導の在り方～心理臨床実践指導者へのインタビュー調査から考える～. 日本心理臨床学会第31回大会口頭発表.</p> <p>⑧高橋寛子. 2012. セラピストTAEによる実践から研究への推進過程－グループセラピストTAEを巡って－. 第1回TAE質的研究国際シンポジウム口頭発表.</p>
------	---

教育能力	<p>⑨高橋寛子. 2011. 「セラピストTAEの心理臨床実践研究への適用とその意義」. 日本ジェンダリン学会第1回大会ラウンドテーブル口頭発表.</p> <p>⑩高橋寛子・得丸さと子. 2011. セラピストの「実践知」を言葉に開く - 「象徴的定向」(Symbolic-Orientation)が創出されるまで-. 日本人間性心理学会第30回大会口頭発表.</p>
担当授業科目	<p>2022年度          &lt;学部&gt;: 基礎ゼミナール、専門&lt;ミナール、心理学的支援法 I、芸術と心理療法、心理演習 I、卒業プロジェクト研究ゼミナール          &lt;大学院&gt;: 臨床心理面接特論I、臨床心理面接特論II、臨床心理実習 I A、臨床心理実習 I B、臨床心理実習 I C、臨床心理事例検討、心理療法特論 II、修士論文</p>
代表的シラバス	<p>「芸術と心理療法」では、人が生きる営みに深く沿う心理療法の世界について、人間文化学の観点を含みつつ芸術や表現との接点を切り口として考察を深める。本講義では心理療法を芸術や表現の視点から読み解き、人が生きる上で表現するとは何か、どのような意味を持つのかについて、事例も提示しながら考えていく。本授業では、到達目標を(1)心理療法(人間)にとっての表現することの意味と機能について説明することができる。(2)心理療法(人間)の創造性における言語的表現と非言語的表現の働きについて説明できる。(3)心理療法における表現を通してセラピストとクライアントの「関係性」を読み解くことが出来る、に置き、教員自らの心理臨床実践を踏まえながら、学生自らが現代社会に生きる者としてこのテーマについて考えることのできる力を醸成する。</p>
教育改善活動	<p>①FD推進委員長・大学院FD委員長としてFD活動に関与し、自らの授業へも還元することができた。双方向の授業展開を心掛け、Google classroomを全授業で有効活用している。また、毎回授業後の感想シートを授業に活かすことを心掛け、学生からの授業評価を積極的に取り入れて授業効果を上げるよう努力している。</p> <p>②基礎ゼミナールチーフとして、大学導入への初期教育における全クラスの取りまとめを行った。特に、新任教員複数名が担当教員として配置されていたことから、共通シラバスの中で教員専用のGoogleクラスルームを活用しながら教員間の横のつながりと情報共有を密にし、上級学年の学生や進路部とも連動させる形でのキャリア支援や課題解決型グループワークなど学生の主体的な関与を引き出す教育につながるよう活動を行った。</p> <p>③心理臨床教育の方法論の実践と研究を行っている。学部・大学院において、心理臨床家育成のための教育方法としてTAE(Thinking At the Edge)を導入し、新たな教育改善として研究発表も行っている。</p> <p>④大学院の事例検討の持ち方、スーパーヴィジョンのあり方について、さらに実習授業の評価基準作成などについて、学生への調査なども行いながら他の教員と協働しながら、よりよい教育改善のための活動にあたっている。</p>
対教育する能力に	<p>(1)学生による授業評価</p> <p>授業評価アンケートにより、講義科目においても演習科目においても、満足度が高いことが明らかになっている。自由記述欄でも「深く考えさせられる授業であった」「難しいテーマだがわかりやすく説明されていた」など肯定的記述が多数であった。より学生同士のディスカッションが活性化されるよう工夫を行っていくことが必要であると考えている。</p>

### 研究業績

研究の特徴	<p>心理臨床に生じるプロセスについて、とくに体験過程理論(Gendlin.E.T.)からの考察を試みる実践的研究を行っている。また「フォーカシング」を軸として、暗在性(the implicit)へのかかわりから、事例研究、心理臨床基礎教育、体験の言語化や研究法について検討している。心理臨床実践者の育成のために必要とされるシステムづくり、セラピスト・フォーカシングを用いた対人援助職への支援活動についても実践的研究を行い、事例検討やスーパーヴィジョンのあり方や実習について、教育方法や効果について検討・考察を行っている。さらに山梨県糖尿病医療学研究会に参加し、医療従事者との事例検討を行なっている他、認定こども園での子育て支援活動にも参与し子育て中の母親への支援、保育者支援などを通して地域支援活動を行い、研究成果を論文にまとめている。</p>
研究経歴	<p>1987年～2010年</p> <p>・大学学生相談専任カウンセラーとして、主に青年期の教育臨床における心理臨床実践と事例研究を行ってきた。また学内教職員にむけての啓蒙的教育活動や、精神的健康における予防活動、学生支援システムの構築に向けて実践と研究とを重ねてきた。さらに、他職種(看護職、福祉職、教員)との連携システムづくり・キャンパス全体を視野に入れた実践活動を行い、研究発表や論文執筆を行った。</p> <p>2010年～2012年</p> <p>・京都大学大学院教育学研究科博士後期課程臨床実践指導学講座に在籍し、長年の心理臨床実践を基軸としながら、心理士養成に関わる諸問題について、特にスーパーヴィジョン・事例検討について研究を行ってきた。また心理臨床事例の研究法に関する研究として、新たな質的研究としてのTAE(Thinking At the Edge)の適用について、実践研究を進め、数編の単著論文を執筆し、心理臨床実践と教育に関する共同研究をもとに学会発表を行った。</p>

研究経歴	2013年～現在	山梨英和大学専任教員として、教育臨床での実践や研究を推し進めている。青年期の身体的実感を賦活させ主体的自己表現、他者との関係の構築を促進するための手掛かりとして「体験過程やTAE(Thinking At the Edge)をいかに活用できるか」に関する研究を進めてきたが、現在は心理士養成のための臨床心理実習、スーパーヴィジョン・事例検討において実践的教育法や効果研究を積み重ねている。また、地域支援の一環として子育て支援に関わり、保育士・子育て中の母親などにむけての講演会や研修会講師として携わっている。
研究実績	<p>(1)著書</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高橋寛子 (2016) 12章 心理臨床の「実践知」から言語化へのプロセス 『「主観性を科学化する」質的研究法入門』 末武康弘・諸富祥彦・得丸智子・村里忠之編 金子書房 190-203.</li> <li>2. 高橋寛子 (2015) 第3章 身体的実感を育むー「隠す」関係から「感じあう」関係への心理教育的支援『学生相談から切り拓く大学教育実践ー学生の主体性を育むー』 窪内節子監修 設楽友崇・高橋寛子・田中健夫編著 学苑社 43-64.</li> <li>3. 高橋寛子 (2012) 第6章 学外実習・留学・インターンシップー教育機関としての責任と個人の学ぶ権利ー 『学生相談と発達障害』 高石恭子・岩田淳子編著 学苑社 115-135.</li> <li>4. 高橋寛子 (2010) 第5話 傷みの通過点 『12人のカウンセラーが語る12の物語』 杉原保史・高石恭子編 ミネルヴァ書房 95-117.</li> <li>5. 高橋寛子 (2009) 風景構成法の事例研究第1節 「ある摂食障害女性の心理療法過程」 現代のエスプリ『風景構成法の臨床』 皆藤章編 ぎょうせい 155-181.</li> <li>6. 皆藤章・○高橋寛子・川崎克哲 (2009) 風景構成法の事例研究 第2節 ケースカンファレンス 現代のエスプリ 『風景構成法の臨床』 皆藤章編 ぎょうせい 182-202.</li> <li>7. 高橋寛子 (2004) 『カウンセリング大事典』 小林司編 新曜社 「イラショナル・ビリーフ」「内潜的条件づけ」「キャリアガイダンス」「結婚」の項目を担当</li> </ol> <p>(2)学術論文</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高橋寛子(2018)心理臨床教育における体験の言語化とその意義ーTAEの‘Dipping &amp; Crossing’による俯瞰化・普遍化・構造化ー. 山梨英和大学紀要第16号 1-14. (査読あり)</li> <li>2.高橋寛子(2018)心理臨床大学院でのスーパーヴィジョンと体験の言語化における課題 心理臨床スーパーヴィジョン学第4号. 22-26. (査読なし)</li> <li>3. 高橋寛子(2017)フォーカシングによる傾聴と『身体知』の活用 Monthly Book MEDICAL REHABILITATION No.208 リハビリテーションに役立つ心理療法 23-29. (査読なし)</li> <li>4. 高橋寛子(2016)心理臨床における危機ー思春期・青年期における学校臨床での危機と持ち堪える能力ー 臨床心理事例研究第43号京都大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要 11-13.(査読なし)</li> <li>5. 森稚葉・○高橋寛子(2016)子育て支援ボランティアスタッフにとっての臨床心理士との協働体験 山梨英和大学紀要第14号 34-42. (査読なし)</li> <li>6. 坂井新・○高橋寛子・日下紀子・田中久美子・北岡美世香・河本緑 (2015) 心理臨床実践指導者に必要とされるものー実習指導から臨床実践へー 心理臨床スーパーヴィジョン学創刊号 91-99.(査読あり)</li> <li>7. 高橋寛子 (2014) 『セラピストTAEによる実践から研究への推進過程ーグループセラピストTAEを巡ってー』 TAE質的研究 国際シンポジウム報告書 104-110. (査読なし)</li> <li>8. 高橋寛子 (2013) 学生相談における喪失との関わりー親との死別体験を扱った複数事例からの実践的考察ー 京都大学大学院教育学研究科紀要第59号 457-469. (査読あり)</li> <li>9. 高橋寛子 (2013)「見えるもの」への関わりと「見えないもの」への関わりー学生相談カウンセラーの「身体的実感」を手がかりとしてー 法政大学学生相談室年報第44号 38-46. (査読なし)</li> <li>10. 高橋寛子 (2012)心理臨床における曖昧さとそこにとどまる能力ー‘Negative Capability’と‘暗在性’ (The Implicit)からの考察ー京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践研究センター紀要第16号 65-76.(査読なし)</li> <li>11. 高橋寛子 (2012)身体的実感と自律性とを育む学生相談ー自己臭を訴える女子学生の喪失へのかかわりからー 学生相談研究第33巻1号 1-12. (査読あり・原著論文)</li> <li>12. 高橋寛子 (2011)セラピストの「実践知」を言葉へと開く試みー「TAE」(Thinking At the Edge)の心理臨床実践研究への適用-京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践研究センター紀要 15号 69-82.(査読なし)</li> <li>13.高橋寛子・青井純子・鈴木陽子(2008).面接・受付・コミュニティルームの連動と協働. 東京家政大学保健センター報告書第1号. 47-50. (査読なし)</li> <li>14.高橋寛子(2008)学生支援における学内連携と協働に向けて. 東京家政大学保健センター報告書第1号 9-17(査読なし)</li> <li>15. 高橋寛子 (2007)私の学生相談ー21年間の歩みを振り返ってー 学生相談研究 第28巻2号 143-156. (査読なし、編集委員会からの依頼論文)</li> </ol>	

研究実績	16. 上野容子・山本洋子・○高橋寛子_(2005) 学生相談の歩みと今後の展望 東京家政大学研究紀要第45集(1)人文社会科学 高橋寛子執筆分 192-196. (査読あり)
	17. 高橋寛子 (2003) 学生相談における“つなぐ場”としての役割 - 対人関係に障害をもつ学生とのかわりから- 学生相談研究 第23巻31号 253-263. (査読あり)
	18. 高橋寛子 (2003) 現実的な問題と並行して内的課題に取り組んだ女子学生の事例 - さまざまな“支え”を通して- 大正大学臨床心理学専攻紀要 第6号 35-55. (査読あり)
	19. 高橋寛子(2003) 学生相談室と教職員との連携について- 狭山キャンパスにおける事例と教員へのアンケート調査から- 東京家政大学保健センター学生相談室報告書第2号.20-28.(査読なし)
	20. 高橋寛子 (1992) 女子学生におけるSelf-Imageと進路成熟との関連に関する一研究 上智大学カウンセリング研究所紀要第14号 8-21.(査読あり)
	(3)その他の研究活動(国際会議発表、学術誌編集、学術論文査読等)
	【報告書】
	2020年 7月 The Focuser's Focus Vol.23 No.2 Summer Issue 2020, 研究者の数珠つなぎ『私はフォーカシングをどのように生き、心理臨床や研究に活かしてきたのだろうか?』, 高橋寛子 8-11.
	2018年 3月 シンポジウム『私が実践するスーパーヴィジョン』 皆藤章・高橋靖恵・浅田剛正・浦野エイミ・高橋寛子・鍛冶美幸・岡村裕美子他. 心理臨床スーパーヴィジョン学第4号. 30-43.
	2016年 10月 山梨英和大学後援会報『かけはし』サイコロジカル・サービス領域執筆
	2014年 3月 山梨英和大学 チャペルだより第17号 『人生への出立』執筆
	2013年 10月 山梨英和大学後援会報 『かけはし』基礎ゼミだより執筆.
	2013年 9月 セラピストの危機状況とセラピストフォーカシングによる変容プロセス 日本人間性心理学会第32回大会プログラム・発表論文集, 50-51.
	2012年 3月 『事例から学ぶ技法と理論』. 第49回全国学生相談研修会報告書
	2011年 3月 『コミュニケーション能力を高める心理教育』. 第48回全国学生相談研修会報告書. 28-29.
	2010年 3月 『フォーカシングの基礎と応用』. 第47回全国学生相談研修会報告書. 34-35.
	2010年 12月 「社会人大学院生から」. 京都大学大学院教育学研究科ニュースレター.
	2009年 3月 『certification weeklong に参加して』. 日本フォーカシング協会ニュースレター.
	2009年 3月 『北里大学薬学部学生相談室開室20周年に寄せて』. 北里大学薬学部学生相談室活動報告書20周年記念号. pp. 13.
	2009年 3月 『事例から学ぶ技法と理論』. 第46回全国学生相談研修会報告書. 48-49.
	2009年 3月 教員と学生相談室との連携事例について. 東京家政大学保健センター報告書第2号. 9-12.
	2008年 3月 『インテーク』. 第45回全国学生相談研修会報告書. 28-29.
	【国際会議発表、学術論文査読】
	2020年度 『学生相談研究』(日本学生相談学会誌)事例研究論文、1論文の査読担当。
	2019年度 『人間性心理学研究』(日本人間性心理学会誌)事例研究論文1論文の査読担当。 『学生相談研究』(日本学生相談学会誌)事例研究論文1論文の査読担当。
	2018年度 『人間性心理学研究』(日本人間性心理学会誌)事例研究論文1論文の査読担当。
2017年度 『学生相談研究』(日本学生相談学会誌) 事例研究論文1論文の査読担当。	
2015年度 『心理臨床学研究』(日本心理臨床学会誌) 研究論文1論文の査読担当。	
2015年度 『京都大学大学院教育学研究科紀要』(京都大学)研究論文1論文の査読担当。	
2013年度 『心理臨床学研究』(日本心理臨床学会誌)事例研究論文1論文の査読担当。	
2010年度 『学生相談研究』(日本学生相談学会誌) 事例研究論文1論文の査読担当。	
2008年度 『学生相談研究』(日本学生相談学会誌)事例研究論文2論文の査読担当。	
競争的資金採択課題	特になし

【学会発表】		
2022年	9月	高橋寛子(2022)日本人間性心理学会第41回大会シンポジウム『概念化以前の、暗在的な身体知の力の検証とその応用可能性』共同研究・司会
2021年	8月	高橋寛子(2021)日本人間性心理学会第40回大会シンポジウム『諸領域の交差はどのように可能か？—フェルトセンスが交差を可能にすることをめぐって』共同研究・司会
2020年	9月	高橋寛子(2020)日本人間性心理学会第39回大会 シンポジウム『人間性(心理学)と宗教性の交差をめぐって』共同研究・司会
2019年	9月	高橋寛子(2019)第38回日本人間性心理学会 シンポジウム『交差概念の拡張について考える』共同研究、企画・話題提供
2018年	9月	高橋寛子(2018)第37回日本人間性心理学会自主企画企画・話題提供 『ジェンドリンの「交差」概念を多面的に検討する—生命体における交差現象から言葉と状況の交差まで』
2018年	3月	高橋寛子.(2018). 第4回TAE質的研究シンポジウム 招聘講演 『専門家養成に役立てるTAE—セラピスト養成—』
2017年	11月	北原可奈子・○高橋寛子.(2017). 日本心理臨床学会第36回大会口頭発表『対人援助職の感情体験に関する研究—“触れられない感情”に着目して—』
2017年	9月	高橋寛子.(2017). 日本人間性心理学会第36回大会自主企画 企画者・話題提供者. 『Presence=Being with=Unconditional positive regardという構造を考える』
2017年	9月	梅津碧・○高橋寛子.(2017). 日本人間性心理学会第36回大会 口頭発表 『子育て支援センターを利用する母親の育児体験への一考察—高齢出産女性を中心として』
2017年	4月	高橋寛子 2017「心理臨床教育におけるTAEの意義—体験の俯瞰化から普遍化・構造化へ—」. 第3回ジェンドリン学会・TAE質的研究シンポジウム合同大会. 口頭発表
2017年	3月	高橋寛子(2017)「心理臨床スーパーヴィジョンと体験の言語化」. 京都大学大学院臨床実践指導学研究会シンポジウム. 口頭発表
2016年	8月	高橋寛子.(2016). 日本人間性心理学会第35回大会口頭発表 『TAEを用いた体験の言語化とその意義; 大学院生の病院実習体験の深まりと構造化』
2013年	9月	高橋寛子.(2013). 日本人間性心理学会第32回大会自主シンポジウム口頭発表 『危機対応におけるセラピストフォーカシングの可能性—リスナー/ガイド体験から』
2013年	3月	木下直紀・天下谷恭一・堀川聡司・河野一紀・日下紀子・水野綾香・中藤信哉・坂井新・高橋寛子・田中久美子・山口昂一(2013) 精神分析的心理療法の効果研究についての展望. 卓越した大学院拠点形成支援国際フォーラム ポスター発表.
2012年	12月	高橋寛子.(2012). セラピストTAEによる実践から研究への推進過程—グループセラピストTAEを巡って— 第1回TAE質的研究国際シンポジウム口頭発表.
2012年	9月	坂井新・○高橋寛子・日下紀子・田中久美子・北岡美世香・河本緑.(2012). “生きた体験”に基づく現場実習指導の在り方—心理臨床実践指導者へのインタビュー調査から考える—. 日本心理臨床学会第31回大会口頭発表.
2011年	12月	高橋寛子. 「セラピストTAEの心理臨床実践研究への適用とその意義」. 日本ジェンドリン学会第1回大会ラウンドテーブル口頭発表.
2011年	10月	高橋寛子・得丸さと子.(2011). セラピストの「実践知」を言葉に開く—「象徴的定位置」(Symbolic-Orientation)が創出されるまで—. 日本人間性心理学会第30回大会口頭発表.
2011年	5月	高橋寛子.(2011). 多彩な身体症状を訴える女子学生との面接過程—母との一体感からの解放. 日本学生相談学会第29回大会ワークショップ—実践から研究へ— 口頭発表.
2009年	5月	高橋寛子.(2009)コミュニティーを拠点とした学生支援活動の変遷と意義. 日本学生相談学会第27回大会ワークショップ事例発表
2008年	1月	高橋寛子.(2008). 様々な身体症状を訴える女子学生の事例. 第41回全国学生相談研究会議 事例発表
2007年	10月	高橋寛子・山本洋子・青井純子.(2007). 新入生に対するメンタルヘルスチェックリストの結果分析—女子学生の19年間の変化について—. 第45回全国大学保健管理研究集会ポスター発表.
2007年	5月	高橋寛子.(2007). ささまざまな自傷行為をくり返しながら成長を遂げた女子学生の事例. 日本学生相談学会第25回大会ワークショップ事例発表
2006年	11月	高橋寛子.(2006). 気持ちとからだがか切れていると訴える摂食障害の女子学生の事例 第44回全国学生相談研修会事例発表

学会等発表・役員参加	2002年	5月	高橋寛子. (2002). 学生相談における“つなぎの場”としての役割. 日本学生相談学会第20回大会口頭発表
	2000年	5月	高橋寛子. (2000) 復学学生を中心としたサポートネットワークへの試み. 日本学生相談学会第18回大会口頭発表
	1996年	5月	高橋寛子・橋口英俊. (1996). REBTの効果に関する研究 I - 対人恐怖症の女子学生の事例 - (その1)(その2). 日本カウンセリング学会第29回大会口頭発表
	1992年	5月	橋口英俊・山本洋子・○高橋寛子. (1992). メンタル・ヘルス・インベントリーに関する研究 (その1)(その2). 日本カウンセリング学会第25回大会口頭発表.
	【学会等の役員参加】		
	2021年	5月	日本学生相談学会第39回大会 ワークショップ講師 『学生相談カウンセラーのためのフォーカシング』
	2014年	5月	日本学生相談学会第32回大会 ワークショップ講師 『セラピストのためのフォーカシング』
	2013年	9月	日本人間性心理学会第32回大会 研究発表座長
	2010年	5月	日本学生相談学会第28回大会 研究発表座長
	2009年	5月	第28回日本心理臨床学会春季大会 ワークショップ講師 『セラピストのためのフォーカシング』
2009年	5月	日本学生相談学会第27回大会 事例研究発表座長	
2008年	5月	日本学生相談学会第26回大会 研究発表座長	
共同研究・受託研究の実績	2019年 ～現在		セラピスト・フォーカシングの対人援助職への効果に関する共同研究
	2015年 ～現在		高橋寛子他8名. 山梨大学地域未来創造センター COC+部門 子育て支援コース担当として共同研究・教育及び支援活動に携わっている。
	2013年		木下直紀・天下谷恭一・堀川聡司・河野一紀・日下紀子・水野綾香・中藤信哉・坂井新・○高橋寛子・田中久美子・山口昂一. (2013). 精神分析的な心理療法の効果研究についての展望. 卓越した大学院拠点形成支援国際フォーラム.
	2012年		坂井新・○高橋寛子・日下紀子・田中久美子・北岡美世香・河本緑. (2012). 共同研究.“生きた体験”に基づく現場実習指導の在り方についての研究を行い、心理臨床実践指導者へのインタビュー調査と質的分析とを行った。その成果について、日本心理臨床学会第31回大会(2012)において、共同発表を行った。
	2012年		高橋寛子・田中久美子(2012)共同研究:セラピストTAEによる実践から研究への推進過程について共同研究を行い、「グループセラピストTAE」によって生じた様々なプロセスや相互作用について検討した。その成果を第1回TAE質的研究国際シンポジウム(2012)で発表した。
	2011年		高橋寛子・得丸さと子. (2011). 共同研究:セラピストの「実践知」を言語化する試みを行い、共同研究としてセラピストTAE(Thinking At the Edge)を実施し、「象徴的定向」(Symbolic-Orientation)を中核とした独自の言語の創出と概念が抽出された。その経過と新たな質的研究法についての考察を、日本人間性心理学会第30回大会において発表した。
2007年		高橋寛子・山本洋子・青井純子. (2007). 共同研究:大学新生に対するメンタルヘルスチェックリストの結果分析に関する共同研究を行った。女子学生の19年間の変化について統計的に分析し、その成果について、第45回全国大学保健管理研究集会(2007)においてポスター発表を行った。	



<p>大学院生指導</p>	<p>&lt;大学院研究指導・修士論文題目&gt;          ・2022年度:1名の修士論文指導を担当。          ・2021年度:1名の修士論文指導を担当          ・2020年度:1名の修士論文指導を担当          ・2019年度:2名の修士論文指導を担当。          ・2018年度:4名の修士論文指導を担当。          ・2017年度1名が、2016年度3名が修士論文を提出し、その指導を行った。          ・2019年度「心理臨床家のイニシエーションに関する研究:「心理士になる」ことの内的な体験に着目して          ・2018年度「心理臨床家のクライアント理解にメタファーが果たす役割:“よく考え、感じることから紡ぎ出される言葉”          ・2017年度「若年無業者が無業状態を抜け出すに至った心理的プロセスとその要因 “とまり木となる他者”に着目して          ・2016年「障害者支援施設職員の感情への対処 -対人援助職の“触れられない感情”に着目して」          「子育て支援センターを活用する母親の育児体験への一考察-高齢出産女性を中心として-」          「中年期母親の子離れ体験に関する研究;心理的離れ体験の語りからの分析」          ・2015年度「学校生活における“居づらい感”とその抱えの様式に関する研究」          ・2014年度「青年期における日常的な解離体験の意味づけに関する研究」、「屈折した甘えが青年期の自立に及ぼす影響」          ・2013年度「青年期における被受容感と対象関係の関係について:質問紙と母子画による検討」          「一般女子学生における摂食障害傾向と家族関係に関する一考察」(副査として審査)</p>
<p>大学院生指導</p>	<p>①山梨英和大学大学院において、大学院生および特別研修生、修了生に向けてスーパーヴァイザーとしてケーススーパーヴィジョンを個別面談で実施し、1回1時間のスーパーヴィジョンセッションを毎週担当し、心理臨床の実践的指導を行っている。これらは、心理臨床家を育てるための中核となる臨床実践指導であるため、大学院生個々の課題・ケースに合わせてきめ細かな指導を心掛けている。(2013年度～現在)</p> <p>②毎年、大学院生の修士論文指導(研究指導)1～4名程度担当している。各自の研究テーマを深め修士論文執筆に向けての研究指導を担当している。(2013年度～現在)</p> <p>③2013年・2018年に、甲信・中部地方の5大学院(愛知教育大学大学院、岐阜大学大学院、信州大学大学院、静岡大学大学院、山梨英和大学大学院)大学院生約40名に対して心理臨床に活かすためのセラピストフォーカシングの講義・実習を行った。さらに、大学院修了生に向けても、個人スーパーヴィジョンや研修会、事例検討会講師などの機会を通して、後進の指導に当たっている。</p> <p>④山梨英和大学大学院において、「臨床心理実習」「事例検討」「臨床心理面接特論I・II」「心理療法特論II」などの授業を担当し公認心理師・臨床心理士を育成している。また、精神科医療機関や中高などで外部実習指導をおこなっている。加えて、カウンセラーに必要とされる傾聴訓練や面接技法に関する実習を行い、対人援助職に必要とされる基礎的人間力の育成をはかっている。(2013年度～現在)</p> <p>⑤神奈川大学大学院においてクリニカルスタッフとして臨床心理専攻の大学院生の臨床実践指導を3年間で行った。インターク面接指導、ケースカンファレンスなど実践指導によって臨床心理士としての基礎的能力の土台を築くための個別指導を行うほか、「臨床面接技法」に関する実践的教育を担当し、「フォーカシング」「描画法」を用いた実践的個別指導を行った。2017年度から放送大学大学院において特任教授として、修士論文・研究指導、論文審査などに携わり、1名の修士課程大学院生の研究指導に当たった。</p>
<p>研究能力に対する評価</p>	<p>・長年の学生相談心理臨床実践における大学コミュニティのシステムづくりや連携への貢献に高い評価を得て、2006年に日本学生相談学会から奨励賞(実践活動奨励賞)を授与された。</p>

サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績	2022年度	<p>2022年度は、以下の学内(外)委員会活動の委嘱を受け活動した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・副学長</li> <li>・FD・SD推進委員会委員長</li> <li>・大学院FD・SD推進委員会委員長</li> <li>・大学経営協議会委員</li> <li>・大学運営評議会委員</li> <li>・学部入学者選抜委員会委員</li> <li>・大学院入学者選抜委員会委員</li> <li>・大学中長期計画実行委員会委員</li> <li>・大学評価・改革推進会議委員</li> <li>・心理臨床センター管理運営委員会委員</li> <li>・宗教委員会委員</li> <li>・山梨英和COC+推進委員会子育て支援部門委員</li> <li>・山梨英和学院理事・評議員</li> </ul>
	2021年度	<p>2021年度は、以下の学内(外)委員会活動の委嘱を受け活動した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD・SD推進委員会委員長</li> <li>・大学院FD・SD推進委員会委員長</li> <li>・心理臨床センター管理運営委員会委員</li> <li>・宗教委員会委員</li> <li>・山梨英和COC+推進委員会子育て支援部門委員</li> <li>・山梨英和学院理事・評議員</li> </ul>
学内委員会・作業部会等活動実績	2020年度	<p>2020年度は、以下の学内(外)委員会活動の委嘱を受け活動した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD・SD推進委員会委員長</li> <li>・大学院FD・SD推進委員会委員長</li> <li>・心理臨床センター管理運営委員会委員</li> <li>・宗教委員会委員</li> <li>・山梨英和COC+推進委員会子育て支援部門委員</li> <li>・山梨英和学院評議員</li> </ul>
	2019年度	<p>2019年度は、以下の学内(外)委員会活動の委嘱を受け活動した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイコソジカル・サービス領域長</li> <li>・教務担当主任</li> <li>・大学経営協議会委員</li> <li>・大学運営評議会委員</li> <li>・大学中長期計画実行委員会委員</li> <li>・大学評価・改革推進会議委員</li> <li>・学生サービス部運営委員会委員</li> <li>・ハラスメント調査委員長</li> <li>・学生パソコン検討委員会委員</li> <li>・アッセンブリー検討委員会委員</li> <li>・三英和合同企画プロジェクトチームメンバー</li> <li>・心理臨床センター管理運営委員会委員</li> <li>・学部入学者選抜委員会委員</li> <li>・大学院入学者選抜委員会委員</li> <li>・大学院FD・SD推進委員会委員</li> <li>・危機管理委員会委員</li> <li>・カリキュラム検討委員会委員</li> <li>・宗教委員会委員</li> <li>・宗教主任選考委員会委員長</li> <li>・心理臨床センター管理運営委員会委員</li> <li>・山梨英和COC+推進委員会子育て支援部門委員</li> <li>・山梨英和学院評議員</li> </ul>
	2018年度	<p>2018年度は、以下の学内(外)委員会活動の委嘱を受け活動している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイコソジカル・サービス領域長</li> <li>・教務担当主任</li> <li>・大学経営協議会委員</li> <li>・大学運営評議会委員</li> <li>・大学中長期計画実行委員会委員</li> <li>・大学評価・改革推進会議委員</li> <li>・学生サービス部運営委員会委員</li> <li>・ハラスメント調査委員長</li> <li>・心理臨床センター管理運営委員会委員</li> <li>・学部入学者選抜委員会委員</li> <li>・大学院入学者選抜委員会委員</li> <li>・大学院FD・SD推進委員会委員</li> <li>・危機管理委員会委員</li> <li>・カリキュラム検討委員会委員</li> <li>・宗教委員会委員</li> <li>・心理臨床センター管理運営委員会委員</li> <li>・山梨英和COC+推進委員会子育て支援部門委員</li> <li>・山梨英和学院評議員</li> </ul>

学内委員会・作業部会等活動実績	2017年度	以下の学内(外)委員会活動の委嘱を受け活動している ・サイコロジカル・サービス領域長 ・宗教委員会委員 ・心理臨床センター管理運営委員会委員 ・山梨英和COC+推進委員会子育て支援部門委員 ・大学院入学選抜者会議委員 ・大学院FD推進委員会委員 ・山梨英和学院評議員
	2016年度	以下の学内(外)委員会活動の委嘱を受け活動している。 ・「サイコロジカル・サービス領域連絡者」 ・「宗教委員会委員」「クリスマス礼拝司式」 ・「学長選考委員」 ・「宗教主任選考委員」 ・「COC+ 子育て支援部門 担当」 ・山梨英和学院評議員
	2015年度	学内では以下の役割の委嘱を受け、活動した。 ・心理臨床コース・コースコーディネータ ・社会連携センター委員会委員 ・宗教委員会委員 ・学生サービス部委員会委員 ・COC+子育て支援部門 担当 ・大学院入試委員
	2014年度	「心理臨床コースコーディネータ」「宗教委員会委員」「学生サービス部運営委員会委員」「入試委員会委員」など各種委員会の委嘱を受け、活動した。
	2013年度	「宗教委員会委員」、「大学院入試委員」、「大学院FD推進委員会委員」、「心理臨床センター紀要編集委員」として活動した。
アドバイザー活動実績	2022年度	学部では1年生12名、2年生1名、3年生13名、4年生12名、計38名のアドバイザーを担当。また大学院では1年生3名、2年生1名のアドバイザーを担当した。
	2021年度	学部では2年生20名、3年生12名、4年生11名、計43名のアドバイザーを担当。また、大学院では1年生1名のアドバイザーを担当している。
	2020年度	学部では、1年生17名、3年生11名、4年生4名計32名のアドバイザーを担当。うち1名は留学生である。また、大学院では2年生1名、特別研修生1名計2名のアドバイザーを担当している。
	2019年度	学部では、2年生～4年生まで16名のアドバイザーを担当。うち1名は留学生である。また、大学院修士課程では、1年生1名、2年生1名、特別研修生1名計3名のアドバイザーを担当し、学業・研究指導と並行して、学生生活・進路など修学面での支援や指導を行っている。
	2018年度	学部では、2年生～4年生まで19名のアドバイザーを担当。うち3名は留学生である。また、大学院修士課程では、1年生1名、2年生2名、特別研修生1名計4名のアドバイザーを担当し、学業・研究指導と並行して、学生生活・進路など修学面での支援や指導を行っている。
後進育成活動実績	<p>①(2013年～現在) 山梨英和大学大学院において、大学院院生のスーパーヴィジョンを年間相当数担当している。修了生に向けても個人スーパーヴィジョンやグループスーパーヴィジョン、研修会講師などを務め後進の育成に取り組んでいる。ケースが安全に意味あるプロセスをたどれるよう、実践的指導を行いながら後進の育成に積極的に関与し、自身の心理臨床活動や研修にも時間を割くことを自らに課している。</p> <p>②神奈川大学大学院において、臨床心理士を目指す大学院生のスーパーヴィジョンを担い、臨床家としての基盤づくりに関与した。(2010年～2013年)</p> <p>③フォーカシング個別指導、セラピストフォーカシングセッション、フォーカシングワークショップなどで公認心理師・臨床心理士を目指す大学院生や現役心理士の育成やスーパーヴィジョンに携わってきた。(2002年度～現在)。また、地域の臨床心理士や本学大学院修了生に向けて研修機会を提供するなど、積極的に後進の育成に関与している。</p> <p>④個人契約及び民間カウンセリングセンターにおいて、臨床心理士へのスーパーヴィジョンを行い、若手～中堅臨床心理士の育成に継続的に関与している。(2010年～現在)</p>	

社会 貢 献 活 動	(1)講演会		
	2022年	10月	山梨県教育庁主催 高校教職員メンタルヘルス研修会講師 『今日から始められる！こころのセルフケア ーストレスと上手に付き合う方法ー』□
	2021年	10月	山梨県教育庁主催 高校教職員メンタルヘルス研修会講師 『今日から始められる！こころのセルフケア ーストレスと上手に付き合う方法ー』□
	2020年	10月	山梨県教育庁主催 高校教職員メンタルヘルス研修会講師 『今日から始められる！こころのセルフケア ーストレスと上手に付き合う方法ー』
	2019年	10月	山梨県教育庁主催 高校教職員メンタルヘルス研修会講師 『今日から始められる！こころとからだのセルフケア』
	2018年	10月	山梨県教育庁主催 高校教職員メンタルヘルス研修会講師 『今日から始められる！こころのセルフケア』
	2017年	11月	山梨英和中学高等学校PTA教養講座講演会講師 『中高生の心理と親の関わり ーよりよい親子関係を築くには？ー』
	2017年	10月	北杜市子育て世代包括支援センター 子育て応援フェスタ 講演会講師
	2016年	11月	山梨県臨床心理士会子育て支援委員会主催 研修会・講演会講師。 『支援するこころ、支援されるこころ ～支援者がいきいきと元気であるために～』 一般者に対する講演とともに臨床心理士らに向けて研修会講師を務めた。
	2016年	4月	山梨県笛吹市 保育所(園)職員研修 講演会講師。 『子育て支援・親支援 ～切らない支援・つなぐ支援に向けて～』と題して、 笛吹市保育園園長・保育士ら約200名に向けて講演会講師を務めた。
	2011年	6月	埼玉県臨床心理士会 東日本大震災支援特別プロジェクト研修会講師 『震災支援者のためのセラピスト・フォーカシング』
	2010年	12月	埼玉県学校臨床心理士研究会 東部地区研修会講師 『スクールカウンセラーのためのセラピスト・フォーカシング』
	(2)出前講座		
	2022年	10月	山梨県立甲府東高校 「ミニ大学」模擬授業 心理臨床の本質を 体験から学んでみよう! ーフォーカシングの理論とワークー
	2022年	8月	山梨英和大学オープンキャンパス模擬授業
	2021年	10月	山梨英和高校模擬授業 臨床心理学の世界 ー創造性とイメージ表出の観点からー
	2021年	7月	山梨英和大学オープンキャンパス模擬授業
	2020年	12月	山梨県立笛吹高校 説明会での出張講義
	2020年	9月	山梨県立吉田高校 ストレスマネジメント講座 出張講義
	2020年	7月	山梨英和大学大学院 オープンキャンパス ビデオ模擬授業
	2020年	6月	山梨英和大学 高校生談話室 ビデオ模擬授業
	2019年	11月	山梨県立巨摩高校 出張講義
	2019年	7月	山梨英和大学 オープンキャンパス模擬授業
	2018年	9月	中部地区臨床心理5大学院研究会 臨床心理演習講師 『フォーカシングを臨床に 活かす』
	2018年	8月	山梨英和大学 オープンキャンパス模擬授業
	2018年	7月	星槎国際高等学校甲府校 模擬授業
	2017年	10月	山梨県立甲府城西高校 模擬授業『臨床心理の世界』
	2017年	7月	山梨英和大学大学院オープンキャンパス模擬授業
	2017年	6月	山梨英和大学 高校生談話室話題提供者 「心理臨床の世界をワークで体験して みよう！」
	2016年	7月	あさなぎクリニック 臨床心理研修会講師
	2016年	10月	山梨英和大学院修了生ネットワーク研究会 事例検討会講師
	2016年	10月	山梨県立甲府昭和高校主張講義『臨床心理学 ーからだからのメッセージを聴くと は?ー』
	2015年	10月	山梨県立甲府昭和高校出張講義 『心とからだのメッセージを聴く』
	2015年	10月	山梨英和大学大学院生修了生研修会講師(『セラピストのためのフォーカシング』)
	2015年	8月	山梨英和大学大学院オープンキャンパスにおける模擬授業
2015年	4月～ 現在	山梨県笛吹市『子育て支援センターえいわ』臨床心理士として子育て中の母親へ の支援・心理面接・講演会・研究活動	

	2014年	7月	山梨英和大学大学院オープンキャンパス模擬授業 「はじめてのフォーカシング」
	2014年	2月	京都大学学際融合教育研究推進センター分野横断プラットフォーム構築企画 心理臨床の知・哲学の知からの創造的意味生成へのプロセスー暗在性 (the implicit)と出会い体験するワークショップー』 共同企画者・講師
	2013年	11月	山梨県立山梨高校 模擬授業
	2013年	10月	山梨英和学院高校 模擬授業
	2013年	9月	中部地区臨床心理5大学院研究会 臨床心理演習講師『フォーカシングを臨床に 活かす』
	2012年	1月	日本聖書神学校において「青年期と摂食障害」についての講義
	2011年	11月	第49回全国学生相談研修会講師 『事例から学ぶ理論と技法』
	2010年	10月	第48回全国学生相談研修会講師 『コミュニケーション能力を高める心理教育』
	2009年	11月	第47回全国学生相談研修会講師 『フォーカシングの基礎と応用』
	2008年	11月	大正大学文学部臨床心理学科「臨床心理学技法演習」「技法テーマ研究B」ゲスト 講師
	2008年	11月	第46回全国学生相談研修会講師 『事例から学ぶ理論と技法』
	2007年	11月	第45回全国学生相談研修会講師 『インテーク』
	2005年 ～2003年		埼玉県入間市健康福祉センター精神保健技術者研修会講師
	2003年	8月	日本聖書神学校「臨床牧会訓練」において「フォーカシング」に関する集中講義
	(3)公開講座		
	2020年	10月～ 2021年1月	山梨英和大学メイプルカレッジ講師『対人援助職に役立つフォーカシング』4回連続 ゼミ
	2020年	9月	山梨英和大学メイプルカレッジ講師 対人援助職に役立つ臨床心理学 『対人援助職にフォーカシングを活かす』
	2019年	11月	山梨英和大学メイプルカレッジ講師 対人援助職に役立つ臨床心理学 『対人援助職のためのセラピストフォーカシング』
	2018年	10月	山梨英和大学メイプルカレッジ講師 対人援助職に役立つ臨床心理学 『対人援助職のためのセラピストフォーカシング』
	2015年	6月	山梨英和大学 メイプルカレッジ講師 『こころとからだの声を聴くー初めてのフォーカシング体験講座ー』 連続講座
	2014年	10月	山梨県民コミュニティカレッジ(地域ベース講座)「サイコロジー・トuesday」講師 第5回「臨床と心理学の背景にあるもの」担当講師
	2014年	10月	山梨英和大学 メイプルカレッジ講師 『こころのメッセージを聴く』 連続講座
	(4)学外審議会・委員会等 なし		
	(5)その他		
	2020年	1月～ 現在	山梨県糖尿病医療学研究会メンバーとして事例検討会に参加
	2015年 ～現在		笛吹市子育て支援センター 臨床心理士として活動。子育て支援心理相談面接・ スタッフ研修・母親支援などの活動を行っている。
	2012年	1月	「対人援助職のためのセラピストフォーカシング ワークショップ」講師
	2011年	3月～8月	東日本大震災緊急支援電話相談ボランティア相談員として活動。(日本臨床心理 士会・東京臨床心理士会・日本精神衛生学会共催)
	2011年	5月～	京都大学大学院教育学研究科 「こころの支援室」東日本大震災震災支援者のた めの電話相談相談員として活動
	2009年	7月～ 現在	池袋カウンセリングセンターにおいて、臨床心理士として心理面接を行い、臨床実 践および若手臨床心理士へのスーパーヴィジョンをおこなっている。
	2010年	5月	「対人援助職のためのセラピストフォーカシング ワークショップ」講師 (主催:フォーカシングトレーナーズ)
	2003年 ～現在		日本精神技術研究所フォーカシングセミナー(ベーシックコース・アドバンスコース) 講師

社会  
貢献  
活動

## 成果と目標

専門的成果	<p>① 長年学生相談での心理臨床実践において、立ち上げから組織づくりを担い、他職種との協働・連携システム・予防的活動・事例研究の蓄積を通して、組織に生きる臨床心理士として実践活動と理解とを深めてきた。また個別的支援にとどまらず地域への支援や組織の活性化に関わり、体系だった実践研究の蓄積として論文執筆によって公刊された。</p> <p>② 大学教育全体を視野に入れた授業づくりや人間教育への展開を模索している。これらは、身体的実感を伴った学生・大学院生の主体性を伸ばす教育実践や研修システムに活かされり、『学生相談から切り拓く大学教育』などの著書の編著などによって、広く世に発信した。</p> <p>③ 教育・司法・医療・福祉関連など多くの臨床現場での実践や臨床心理士・公認心理師教育、他職種との連携の蓄積は、心理臨床センターでの臨床実践、大学院生や研修生への教育、実習指導、組織運営に関与する際に十分活かされている。「臨床実践指導学」という日本唯一の博士後期課程講座での学びや研究は、大学院教育のシステムづくりに関与する基盤として活かされるとともに、「スーパーヴィジョン学」の展開を行っている。</p>
専門的目標	<p>① 学部教育においては、学力、コミュニケーション力醸成という課題に向けて教育実践の展開を図る。長年の心理臨床実践活かしつつ、知識のみならず全人的に「育て、育む」教育の模索を試みつつ、他の教員との情報共有や共同研究に積極的に関与しさらなる発信に努める。</p> <p>② 大学院において公認心理師・臨床心理士養成に関わる諸問題に対し、個別のきめ細やかな指導とともに、カリキュラム全体を視野に入れつつ、効果的な教育システムづくりに寄与する。</p> <p>③ 自身の研究テーマである、「暗在性」(the implicit)と「体験過程理論」の臨床適用とをさらに推し進める。大学・大学院教育(心理臨床教育)への活用や「体験の言語化」「対人援助職支援」など実践研究を体系づけるとともに、学部・大学院の教育・実務への貢献や地域支援にも惜しみなく貢献することを目標とする。</p>

作成基準日	2023年3月31日
-------	------------